



Restaffineの ロッドデザイン理念

フィッシングロッドの特質は時代と共にタックル・メソッド・テクニックと、ロッドを構成する素材・パーツの革新とともに大きく変わってきました。

しかし、フィッシングロッドの本質である“ゲームフィッシュを釣る目的手段”としてロッドに求められる本来の不可欠要素に変わりはありません。“キャスト - バイト - フッキング - ファイティング - ランディング”一連の作業の中で各時点の複雑な環境にフィッシャーマンの个性的手法と好みが絡み合います。

Restaffine のロッドづくりは“力ではなく技でキャスト - 違和感なく自然にバイト - ターゲットに与えるショックを極力与えないフッキング - ターゲットの力を真っ向から受けるのではなく力の方向を変えてファイティング - ターゲットが元気なうちにランディング”の理念に基づいてデザインしています。



BORON

ボロン(Boron、ホウ素)は金属と非金属の中間特性を示す“半金属”で炭素やケイ素に似た物質です。高強度、軽さ、高い耐熱性の特性から、軍用や宇宙船などに使われてきました。現在はゴルフシャフト、テニスラケット、自転車フレーム、釣竿等にも普及しています。

フィッシングロッドのボロンは、日本では1970年代に登場しましたがボロンを多用し、高額で重く、硬いだけのロッドになり、「金属で強いが重くて高い」という誤解が生じました。また半面、ボロンの特性を活かせないまま部分的にボロンを巻いてボロンロッドをうたうものも誕生しました。

Restaffineのフルレングスボロン

Restaffineのボロンロッドは、バットからティップまで「フルレングス」であることが最大の特徴です。その目的は単純な剛性アップではなく、ボロン・カーボンの最適な繊維構成・裁断設計により、ボロンの伸縮特性を引き出しています。ロッドの“パワー”は決して“硬さ”ではありません。カーボンロッドのパワーが“それ以上曲がらない強さ”ならば、フルレングスボロンロッドのパワーコンセプトは“曲がりの限界に近づいても、さらに一瞬曲がって、瞬時に戻るボロンの粘り特性です。

Restaffineのフルレングスボロンは、荷重のほとんどかかっていない状況ではフルカーボンロッドよりむしろソフトな感触です。しかし、ひとたび荷重がかかると強く粘りを生じるようになり、ベンディングに比例して粘りのパワーも大きくなります。そして曲がりの限界に近づいてもボロンの粘りの特質により、さらに一瞬曲がり瞬間に戻ります。

ウェイトの軽いジグをキャストしたい時にはロッドにウェイトがのり、キャストが非常に心地よくなります。少し重いジグを使いたい時には、空荷重で感じている以上にウェイトを楽に扱えるでしょう。

また、指先でフックを操っているような高感度、しゃくりの後のロッドのリアクションが速すぎず、遅すぎず、フッキングでもはじきが少なく、ソフト過ぎず、的確なフックセットを助けてくれます。不意のモンスターを相手にしてもロッドを維持し耐えているだけで、ボロンの粘りがモンスターの走りを抑え、無理のないランディングに導いてくれます。

これまでに無い新しい快釣感を体感して頂けると確信しています。

